

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

## セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

# デーヴォ ガイド



2020.11.2-8

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

2:1 兄弟たち。あなたがたが知っているとおり、私たちがあなたがたのところに行ったことは、むだではありませんでした。

2:2 ご承知のように、私たちはまずピリピで苦しみに会い、はずかしめを受けたのですが、私たちの神によって、激しい苦闘の中でも大胆に神の福音をあなたがたに語りました。

2:3 私たちの勧めは、迷いや不純な心から出ているものではなく、だましごとでもありません。

2:4 私たちは神に認められて福音をゆだねられた者ですから、それにふさわしく、人を喜ばせようとしてではなく、私たちの心をお調べになる神を喜ばせようとして語るのです。

2:5 ご存じのとおり、私たちは今まで、へつらいのことばを用いたり、むさぼりの口実を設けたりしたことはありません。神がそのことの証人です。

2:6 また、キリストの使徒たちとして権威を主張することもできたのですが、私たちは、あなたがたからも、ほかの人々からも、人からの名誉を受けようとはしませんでした。

2:7 それどころか、あなたがたの間で、母がその子どもたちを養い育てるように、優しくふるまいました。

2:8 このようにあなたがたを思う心から、ただ神の福音だけではなく、私たち自身のいのちまでも、喜んであなたがたに与えたいと思ったのです。なぜなら、あなたがたは私たちの愛する者となったからです。

2:9 兄弟たち。あなたがたは、私たちの労苦と苦闘を覚えているでしょう。私たちはあなたがたのだれにも負担をかけまいとして、昼

も夜も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えました。

伝道は私たちの最大の使命ですが、それは「神を喜ばせる」ためです。自分の目的達成や評判のための思いが潜んでいないか吟味しましょう。また「権威を主張」しないことも大切です。救いは屈服させられるものではなく、自由な心において神様の愛を十分に感じて決心するものです。また「名誉を受け」ないことも重要です。救いに導いたことで人から褒められるとしたら、自分の心は守られたとしても、共同体の価値観が少しずつ壊れてしまうでしょう。そして「愛」をもって伝道するものです。あなたはどうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 3日 火曜

### I テサロニケ



2:10 また、信者であるあなたがたに対して、私たちが敬虔に、正しく、また責められるところがないようにふるまったことは、あなたがたがあかしし、神もあかししてくださることです。

2:11 また、ご承知のとおり、私たちは父がその子どもに対してするように、あなたがたひとりひとりに、

2:12 ご自身の御国と栄光とに召してくださる神にふさわしく歩むように勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました。

2:13 こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。

2:14 兄弟たち。あなたがたはユダヤの、キリスト・イエスにある神の諸教会にならう者となったのです。彼らがユダヤ人に苦しめられたのと同じように、あなたがたも自分の国の人に苦しめられたのです。

2:15 ユダヤ人は、主であられるイエスをも、預言者たちをも殺し、また私たちをも追い出し、神に喜ばれず、すべての人の敵となっています。

2:16 彼らは、私たちが異邦人の救いのために語るのを妨げ、このようにして、いつも自分の罪を満たしています。しかし、御怒りは彼らの上に臨んで窮みに達しました。

2:17 兄弟たちよ。私たちは、しばらくの間あなたがたから引き離されたので、・・・と

いっても、顔を見ないだけで、心においてはありますが、・・・なおさらのこと、あなたがたの顔を見たいと切に願っています。

2:18 それで私たちは、あなたがたのところに行こうとしました。このパウロは一度ならず二度までも心を決めたのです。しかし、サタンが私たちを妨げました。

2:19 私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか。

2:20 あなたがたこそ私たちの誉れであり、また喜びなのです。

パウロはテサロニケの人々に真心と愛を持って伝道したので、その関係は麗しいものであり続けました。ですから「あなたがたこそ私たちの誉れでありまた喜び」と言っています。そのようなすばらしい人間関係がもたらされるのですから、それもまた希望として、福音を宣べ伝えましょう。

またテサロニケの人々は、パウロのことばを「神のことばとして受け入れ」ました。特に聖書が神のことばとしてある今は、聖書の語られた内容は、それが人を通してであっても、神のことばとして、謙遜に真剣に聞きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 4日 水曜

### I テサロニケ

3:1 そこで、私たちはもはやがまんできなくなり、私たちだけがアテネにとどまることにして、

3:2 私たちの兄弟であり、キリストの福音において神の同労者であるテモテを遣わしたのです。それは、あなたがたの信仰についてあなたがたを強く励まし、

3:3 このような苦難の中にあっても、動揺する者がひとりもないようにするためでした。あなたがた自身が知っているとおおり、私たちはこのような苦難に会うように定められているのです。

3:4 あなたがたのところにいるとき、私たちは苦難に会うようになる、と前もって言うておいたのですが、それが、ご承知のとおり、はたして事実となったのです。

3:5 そういうわけで、私も、あれ以上はがまんができず、また誘惑者があなたがたを誘惑して、私たちの労苦がむだになるようなことがあってはいけな思っ、あなたがたの信仰を知るために、彼を遣わしたのです。

3:6 ところが、今テモテがあなたがたのところから私たちのもとに帰って来て、あなたがたの信仰と愛について良い知らせをもたらしてくれました。また、あなたがたが、いつも私たちのことを親切に考えていて、私たちがあなたがたに会いたいと思うように、あなたがたも、しきりに私たちに会いたがっていることを、知らせてくれました。

3:7 このようなわけで、兄弟たち。私たちはあらゆる苦しみと患難のうちにも、あなたがたのことは、その信仰によって、慰めを受けました。



3:8 あなたがたが主にあって堅く立っていてくれるなら、私たちは今、生きがいがあります。

3:9 私たちの神の御前にあって、あなたがたのことで喜んでる私たちのこのすべての喜びのために、神にどんな感謝をささげたらよいでしょう。

3:10 私たちは、あなたがたの顔を見たい、信仰の不足を補いたいと、昼も夜も熱心に祈っています。

3:11 どうか、私たちの父なる神であり、また私たちの主イエスである方ご自身が、私たちの道を開いて、あなたがたのところに行かせてくださいますように。

3:12 また、私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いの間の愛を、またすべての人に対する愛を増させ、満ちあふれさせてくださいますように。

3:13 また、あなたがたの心を強め、私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒とともに再び来られるとき、私たちの父なる神の御前で、聖く、責められるところのない者としてくださいますように。

パウロは明かにテサロニケ教会の人々を愛していました。そしてその信仰をしっかりと保つように励ましていたのです。しかしその信仰ゆえに、彼らが迫害に会い、「苦難の中に」あることも事実です。パウロはそれを知っていて、信仰に留まるように励ましたのです。

パウロは愛する者が苦勞をしないように考えなかったのでしょうか。迫害されると知りつつなぜ福音を伝えたのでしょうか。それはそこに永遠のいのちがあるからです。迫害を避けつつ、また苦勞を避けつつ永遠の滅びに至るよりも、苦難にありながらも永遠の救いにあずかる方が良いのは当たり前です。

また神の子となった者は当然、神のために生きることが喜びとなり、またそのような者は大切なときに神様から守られ、祝福され、支えられます。

本当の幸いは主のために生きることにあります。本当に恐れるべきなのは、体だけではなく魂も永遠に滅ぼすことのできるお方です。ですから本当の「生きがい」は、永遠のいのちの価値を知って、そのために人々が生きるために勧めることなのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 5日 木曜

### I テサロニケ

4:1 終わりに、兄弟たちよ。主イエスにあって、お願いし、また勧告します。あなたがたはどのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちから学んだように、また、事実いまあなたがたが歩んでいるように、ますますそのように歩んでください。

4:2 私たちが、主イエスによって、どんな命令をあなたがたに授けたかを、あなたがたは知っています。

4:3 神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。あなたがたが不品行を避け、

4:4 各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち、

4:5 神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、

4:6 また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。なぜなら、主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです。これは、私たちが前もってあなたがたに話し、きびしく警告しておいたところです。

4:7 神が私たちを召されたのは、汚れを行なわせるためではなく、聖潔を得させるためです。

4:8 ですから、このことを拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたに聖霊をお与えになる神を拒むのです。

4:9 兄弟愛については、何も書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。

4:10 実にマケドニヤ全土のすべての兄弟たちに対して、あなたがたはそれを実行していま



す。しかし、兄弟たち。あなたがたにお勧めします。どうか、さらにますますそうであってください。

4:11 また、私たちが命じたように、落ち着いた生活をするを志し、自分の仕事に身を入れ、自分の手で働きなさい。

4:12 外の人々に対してもりっぱにふるまうことができ、また乏しいことがないようにするためです。

テサロニケ教会の人々が良い歩みをしているので、パウロはさらに聖となるために勧めています。不品行とは結婚以外の性的な関係で、それはイエス様を唯一の救い主とする信仰に悪影響を及ぼします。兄弟愛が大切ですが、頼るばかりの人には、「働きなさい」と勧めています。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 6日 金曜

### I テサロニケ



4:13 眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。

4:14 私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずです。

4:15 私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。

4:16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、

4:17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。

4:18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

「眠った人々」とは死んだ人々です。地上にいる人々が再臨のイエス様と会うのと同じように、再臨のイエス様に会うことができます。ですからそれはまるで眠っているようなものです。死は終わりではないことを心にとめて、希望を持ちましょう。むしろ楽しみにしてもいいくらいではないでしょうか。

これらの信仰の基本を大切にしましょう。また、「ますますそのように歩」みましょう。それは再臨の希望を持つものとして、地上で歩むということで

です。それは決して死によって無駄にならない生き方です。積極的に前進しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## 7日 土曜

### I テサロニケ

5:1 兄弟たち。それらがいつなのか、また  
どういう時かについては、あなたがたは私た  
ちを書いてもらう必要がありません。

5:2 主の日が夜中の盗人のように来るとい  
うことは、あなたがた自身がよく承知してい  
るからです。

5:3 人々が「平和だ。安全だ。」と言ってい  
るそのようなときに、突如として滅びが彼ら  
に襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦  
しみが臨むようなもので、それをのがれるこ  
とは決してできません。

5:4 しかし、兄弟たち。あなたがたは暗や  
みの中にはいないのですから、その日が、盗  
人のようにあなたがたを襲うことはありません。

5:5 あなたがたはみな、光の子ども、昼の子  
どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者  
ではありません。

5:6 ですから、ほかの人々のように眠ってい  
ないで、目をさまして、慎み深くしていま  
しょう。

5:7 眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うから  
です。

5:8 しかし、私たちは昼の者なので、信仰と  
愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶと  
としてかぶって、慎み深くしていましよう。

5:9 神は、私たちが御怒りに会うようにお  
定めになったのではなく、主イエス・キリス  
トにあって救いを得るようにお定めになった  
からです。

5:10 主が私たちのために死んでくださったの  
は、私たちが、目ざめていても、眠ってい  
ても、主とともに生きるためです。



5:11 ですから、あなたがたは、今してい  
るとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高  
め合いなさい。

「主の日」とは、旧約においてはエドムの滅亡  
のように民族的なさばきを表しますが、新約にお  
いては聖日を、または終末的なさばきと救いの日  
をも表します。いずれも共通の概念は、主の完全  
なる主権が実現するということです。

前節では「眠った人」すなわち肉体において死  
んだ人のことが書かれ、また生きたまま終末の再  
臨を迎える人のことも書かれています。どちらも  
再臨のイエス様にお会いするという点では一緒に  
、その希望が宣言されています。

私たちの多くは肉体の死を迎えた後に主イエス  
と会うでしょう。またはもしかしたら生きたまま  
で再臨の主にお会いするかも知れません。いず  
れにしても永遠の救い主である主イエスにお会  
いすることができるのです。その日を希望として待  
ち遠く思うのがクリスチャンです。

ただその日は「盗人のように」、知らない間に  
突然来るとあります。私たちはその心の備え、信  
仰の備えが必要です。備えとは「今しているとお  
り、互いに励まし合い、互いに徳を高め合」うと  
いうことです。

なぜなら、終りの日には主に人生を報告する必  
要があり、その点でほめられ（または叱責され）  
。そのときまでに地上の使命を全うする必要がある  
からです。その使命とは、救いと成長です。私た  
ちにとっては、伝道と聖化です。

主の日がいつ来ても良いように、日々の使命に  
おいて備えをも意識しつつ、歩んでいきましょう。  
イエス様にお会いすることを希望として持ち続け  
ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の  
約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願い  
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど  
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5:12 兄弟たちよ。あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあつてあなたがたを指導し、訓戒している人々を認めなさい。

5:13 その務めのゆえに、愛をもって深い尊敬を払いなさい。

お互いの間に平和を保ちなさい。

5:14 兄弟たち。あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。

5:15 だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行なうよう務めなさい。

5:16 いつも喜んでいなさい。

5:17 絶えず祈りなさい。

5:18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあつて神があなたがたに望んでおられることです。

主の日すなわち主イエスにお会いすることを思うなら、クリスチャンはいよいよ地上の生き方が善きものになってゆきます。パウロも終末の話をした後に、地上での今のあり方を具体的に勧めています。

指導者を認めて尊敬すべきこと。気ままな者や小心な者や弱い者への態度、また悪い人にも悪で報いないで善を行うべきことなど。

また「絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。」というのは、クリスチャンの基本姿勢です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

